

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

26期(1972/昭和47年)

第一次オイルショック直後の後期修習



会員 鈴木 利治 (26期)

私が修習したのは1972年から1974年の2年間で、半世紀近く昔のことになった。

修習終了のことを先に取り上げるのは、順序が逆のようであるが、26期の終了式は、交通ストで中止となった記憶が焼き付いている。念のため、調べたところ、修習終了の日は、1974年4月11日、国鉄（争議行為が禁止されていた）を含む交通機関（列車、バス、タクシー、飛行機）でストライキが実施されていた。国鉄が分割民営化されJR各社になったのが、1987年4月で既に、32年も前のことである。今昔の感を免れない。

前期修習は、前年にできた湯島の研修所での修習であったが、7月で暑くなったときにも冷房が入らず、「冷房設備が調っていない」と説明され、窓を開け風を入れてしのいだ記憶がある。電気代節約であったのかも知れない。

実務修習は福岡で、22名3班体制、裁判、検察を3班交互に実施し、弁護修習は最後に3班同時に実施された。福岡高・地裁は、平和台の地に移設・新築されたばかり（2018年10月六本松に移設された。家裁は独立庁舎）の新庁舎であったが、福岡高・地検は舞鶴の貫禄のある庁舎であった。なお、検察修習中、葉缶で日本酒に燗をつけることを習得した。福岡の同期とは、今でも年に数回同期会を開き旧交を温めている。

福岡は西鉄の路面電車が充実し、私も下宿先の箱崎から裁判所等に路面電車を通った。驚いたのは、揚げたての天ぷらが食べられる等、屋台が充実していることと、毎日西鉄ライオンズの野球中継があることで

あった。裁判所の隣が西鉄の本拠地平和台球場であったが、裁判所から球場は見えないようになっていた。残念ながら、西鉄は数年前の八百長事件で主力投手を失ったこともあり3年続きの最下位で（1972年は47勝80敗3引分）、この年限り、西鉄は、姿を消した。私は、下宿が箱崎だったので、1972年12月福岡朝日国際マラソンで優勝したショーター選手の力走を筥崎宮付近で目の当たりにできた。実務修習では、裁判、検察、弁護の実務習得（といっても原型をとどめない起案の連続だった）の他、田主丸の葡萄狩り、長崎の三菱造船所、久留米のブリヂストン、北九州の新日鉄八幡製鉄所の見学等実務の習得以外の機会にも恵まれた。また、霧島での夏季合同研修に引き続き、奄美大島、徳之島、与論島に足を延ばしたことも忘れがたい思い出である。実務修習も終わりに近づいた1973年10月、石油輸出機構が原油価格を1バレル3.01ドルから5.12ドルへ約70%引き上げるといふ第一次オイルショックが発生し、トイレットペーパーや、当時専売だった食塩まで買い占められる事態になった。ちなみに、2019年10月28日午後のドバイ原油のスポット価格は1バレル62.3ドルであり、文字通り隔世の思いを禁じ得ない。

後期修習に戻ると、オイルショックの結果、前期修習に比較し、起案用紙の頁数が大幅に減少し、エネルギー節約のため太陽が出たら暖房しないということになり、前後期とも冷暖房に恵まれない、修習になった。今、振り返ると、激動の時期であるが、恵まれた、楽しい修習生活であった。